

犬の運動器疾患と投与期間

病名	病期	関節の状態	NSAIDsの投与期間	
			目安*	考え方
変形性関節症	慢性期	—	6～8週間以上	鎮痛だけではなく、関節機能の改善(可動性、筋量の回復)の目途がつくまで
股関節形成異常	成長期 (1歳以下)	関節の整合性が高いもの	数週間	症状が緩和(筋量が充実して疼痛が解消)されるまで
		関節の緩みが大きいもの	4週間	保存的管理としてのNSAIDs投与、あるいは手術実施(TPOなど)までの期間
		脱臼・亜脱臼を発症しているもの	4週間以上	継続的な疼痛軽減を行う、または救済的手術を実施するまでの期間
	成熟期	関節変形がそれほど大きくないもの	4週間	症状が緩和されるまで
		関節変形が大きいもの	8週間以上	継続的な投与
肘関節異形成	成長期 (1歳以下)	構成骨の成長不整が少ないもの	数週間	症状が緩和されるまで
		構成骨の成長不整が大きいもの・骨軟骨片の分離があるもの	4週間	手術実施までの期間
		関節内側の関節面における軟骨変性が著しいもの	4週間以上	救済的疼痛管理としてのNSAIDs長期間投与、または手術実施までの期間と手術後に疼痛が軽減されるまで
	成熟期	関節構成骨の不整がそれほど大きくないもの	8週間	症状が緩和されるまで
		関節構成骨の不整が大きいもの	8週間以上	継続的な投与
前十字靭帯断裂	—	保存的管理	8週間以上	関節機能の改善まで
		手術前	6週間程度	初期の治療として
		手術後	4週間	症状が改善されるまで
膝蓋骨脱臼	—	症状発現時	2週間	症状が緩和されるまで
		手術後	2週間	症状が改善されるまで(術後の関節腫脹が軽減されるまで)

※実際のNSAIDs投与期間は、個体の年齢・状態にしたがって決定すること

監修 北海道大学 奥村 正裕 先生